都道府県別賞一等

当たり前の毎日は、当たり前じゃない

青森県　八戸市立鮫中学校　三学年

神子澤　天惺

「生命保険」と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるだろうか。

僕は今まで、生命保険は大人が入るもので、自分にはあまり関係がないものだと思っていた。正直、生命保険が何のためにあるのかもあまりよく分かっていなかった。でも、祖母が病気になったことをきっかけに、僕は生命保険について考えるようになった。

今から十五年前、僕が生まれた年に祖母は小脳梗塞になった。突然のことで家族はとても心配したと思う。僕はまだ生まれていなかったのでそのときのことは分からないが、家族から話を聞いて祖母が大変な思いをしたことを知った。

そして十年前、今度は弟が生まれた年に、祖母は大腸ガンになった。祖母は入院し、手術をすることになった。その後も、ほぼ毎年のように腸閉塞になり、入院を繰り返してきた。祖母が入院するたびに家族は心配したし、祖母自身もつらい思いをしてきたと思う。僕は今まで祖母が何度も入院しても、心配に思うくらいだったが、生命保険について考えるようになり、病気になるということは、体がつらくなるだけではないと気づいた。

入院をすれば治療費や入院費などの費用も必要になる。手術をすればさらに費用がかかることもある。もしものときに自分の家族が突然病気になったら、僕はきっと心配で何も手につかなくなると思う。そこにお金の心配まで加わったら家族がもっと苦しくなってしまうかもしれない。だからこそ、元気なうちから、もしものときに備えておくことが大事だと思う。

生命保険は病気を治してくれるものではない。病気になることを防いでくれるものでもない。それでも病気やケガなどで入院したときに、経済的な面から家族を支えてくれる。僕はそこに生命保険の大きな意味があるのだと思う。祖母がこれまで何度も入院してきたことを考えると、病気はいつ起こるか分からないものだと感じる。どれだけ健康に気をつけていても、突然病気になることがある。だからこそ、『自分は大丈夫。』と思うのではなく、もしものときのことを考えておくことが大切だと思う。

今回、この作文を書くことで生命保険は大人だけの話ではなく家族を守ることにつながるものだと知ることができた。そして、祖母が何度も病気を乗り越えて、今も家族と一緒にいてくれることをとても感謝している。入院したと聞くたびに心配になるけれど、退院して家に帰ってきたとき祖母の笑顔を見る

と本当に安心する。

今まで当たり前だと思っていた家族との時間も、決して当たり前ではないのだと思う。

いつか僕が大人になったときには、自分のことだけではなく、大切な家族のこともしっかり考えられる人になりたい。そして、もしものときに家族を支えられるように、生命保険などの備えについてもきちんと考えていきたい。

これからも家族みんなで笑って過ごせる時間を大切にしていきたい。祖母の病気を通して、僕は何気なく過ごしている毎日こそが、かけがえのないものなのだと気づいた。明日もきっと同じ一日が来る。そう思えることこそが、何より幸せなのかもしれない。